

大切な人と 地域を守るために...



8月31日(土)総合防災訓練を実施

◆各地区自主防災活動訓練

■8月31日(土)午前8時～正午

地区	会場	地区	会場
所沢地区	所沢小学校	富岡地区	中富小学校
松井地区	松井小学校	山口地区	山口中学校
	東中学校		上山口中学校
	安松中学校		泉小学校
小手指地区	牛沼生活改善センター	吾妻地区	山口小学校
	熊野神社		椿峰小学校
	北中小学校		荒幡小学校
並木地区	北野小学校	新所沢地区	松が丘中央公園
	小手指小学校		南小学校
	上新井小学校		北秋津小学校
三ヶ島地区	伸栄小学校	新所沢東地区	向陽中学校
	中央小学校		所沢中学校
	並木小学校		緑町中央公園
	若松小学校		美原小学校
三ヶ島地区	生涯学習推進センター	柳瀬地区	所沢北高校
	若狭小学校		柳瀬小学校
三ヶ島地区	三ヶ島小学校		

☑情報収集・伝達訓練、避難誘導訓練、避難者名簿作成訓練など
 ◎訓練時間・内容は、地区ごとに異なりますので、各まちづくりセンターにお問い合わせください。また午前8時から防災行政無線による訓練のための放送を行います。ご理解とご協力をお願いします。



▲安松中学校避難所宿泊体験の様子

【自助】
 地震発生直後の公的な支援は困難で、できることは、限界があります。それを補うのが「自助」です。口ごとの地域のつながりを大切にしましょう。

【共助】
 地震発生直後の公的な支援は困難で、できることは、限界があります。それを補うのが「自助」です。口ごとの地域のつながりを大切にしましょう。

【公助】
 自治会・町内会、自主防災組織などが行っている防災訓練に積極

的に参加しましょう。防災訓練では、避難訓練や情報収集訓練などの訓練を実施しています。また、災害時は近隣の方と互いに助け合い、安全な場所まで避難することが大切です。

◆自主防災組織
 地域住民が「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識、連帯感に基づいて、自主的に結束するも、最も多くの人命を救ったのは地域住民でした。

◆災害時要援護者支援事業
 災害時に、支援が必要となる高齢者や障がい者をお持ちの方への情報伝達や安否確認、避難の手助けが地域の中で行われるための仕組みづくりを、地域の方と進めています。

【自助】
 自分の安全は自分で守る

【共助】
 地域を地域の皆さんで守る

【公助】
 市民の安全を守る



東日本大震災から2年4カ月がたちました。皆さんの中では少しずつ過去のこととして風化していませんか。しかし、今後30年間の関東地方で想定される大地震の発生確率は高いものです。被害を最小限に抑えるために皆さんの日々の備えが必要不可欠です。今号では、地震災害を中心に「自助」「共助」「公助」による取り組みと、防災備蓄品の備蓄品、所沢市地域防災計画の改訂内容を紹介します。

皆さんの地域の避難場所や市の災害対策などの詳細は、3月に全戸配布した「防災ガイド・避難所マップ」または、市庁舎「防災ガイド」で検索をご覧ください。

☎20998-9042
 ☎20998-9042
 ☎20998-9042

所沢市の災害備蓄

市では、防災備蓄倉庫を設置し、災害時用の備蓄をしています。しかし、全員分の用意があるわけではありません。右頁の非常持ち出し品・備蓄品を準備しておきましょう

備蓄品名	数量	備蓄品名	数量
アルファ米(50食入)	10箱	毛布	100枚
簡易トイレ	100個	トイレ用凝固剤	300個
カセットコンロ	8個	カセットボンベ	24本
組立テント	1張	非常用持ち出し袋	2袋
なべ	10個	シート(大・小)	計16枚
ひしゃく	10本	災害対策用工具	3セット
非常用ローソク	10本	車イス	1台
ハンディライト	3個	救急箱(約50人用)	1個
2つ折り担架	2基	ガスコンロ・調整器	2セット
油圧ジャッキ	2台	ボルトクリッパー	1本
折りたたみ式リヤカー	2台	トイレトイレットペーパー	1箱
		筆記用具一式	1セット

☉一部の防災備蓄倉庫には、ほかにカセットガス型発電機や浄水機、仮設トイレ(和・洋式、障がい者用)などが用意してあります。また、ワンタッチパーティションは指定の場所で集中管理しています。

▶カセットガス型発電機
 カセットボンベ2本でおおよそ2時間の発電が可能。

▶簡易トイレ
 強化圧縮ダンボール製の組み立てトイレで、1袋で4人家族の約3～4日分。

▶ワンタッチパーティション
 避難所でのプライバシー確保のための仕切り。

【公助】
 警察・消防・都道府県・市町村などの行政機関、電気・ガス・水道などの生活の基盤となるサービスを提供する公営企業による災害支援活動を「公助」といいます。

◆地震が発生したら
 市内の震度が5弱以上で警戒体制を執り、震度6弱以上では全職員が応急復旧業務を行うために非常体制(一時的に通常業務を止められる場合があります)を執ります。

◆災害情報の提供
 災害・避難情報を防災行政無線や広報車、エリアメール(緊急速報メール)、テレビ埼玉のデータ放送などでお知らせします。また、ところぞろほっとメール(7月参照)でも災害情報や防災情報を提供しており、平成24年度からは全国瞬時情報システム(J-ALERT)と連携し、瞬時に災害情報を提供できるようになりました。

◆防災行政無線
 平成24年度から市民に災害情報を伝達するために重要な役割を果たす防災行政無線を増設しています。24年度は11基、25年度から27年度は毎年10基ずつ増設予定です。防災行政無線の放送内容が聞き取れなかった場合は、防災行政無線放送確認専用フリーダイヤル(☎0120-100466)をご利用(通話無料)ください。

◆所沢市地域防災計画を改訂
 避難所の開設・運営に関する改訂
 女性に配慮した避難所の管理運営を行うための事項を計画に盛り込みました。

◆運営組織(避難所運営委員会)に複数の女性を参加させるよう配慮します。

◆男女別更衣室、男女別トイレ、授乳室の設置に努めます。

◆女性の相談員、福祉相談員を配置や巡回させることで、女性や災害時要援護者のニーズの変化

◆駅別滞在施設一覧

駅名	受入施設	受入可能人数
所沢駅・西所沢駅	所沢まちづくりセンター	377人
航空公園駅	市役所	290人
新所沢駅	市民体育館	1,300人
小手指駅	小手指公民館分館	654人
狭山ヶ丘駅	狭山ヶ丘コミュニティセンター	150人
東所沢駅	柳瀬まちづくりセンター	507人

◆各駅での受け入れ施設の案内やエリアメール(緊急速報メール)を利用した情報提供を行います。同計画の詳細は、市庁舎「所沢市地域防災計画」で検索をご覧ください。

◆避難場所などの確認
 市では、所沢航空記念公園や学校の校庭など67カ所を避難場所として、学校の体育館や市民体育館など58カ所を避難所として指定しています。最寄りの避難場所などを確認しておきましょう。

◆帰宅対策
 交通機関の停止による徒歩での帰宅を想定し、経路の確認、運動靴や地図、携帯食料などを日ごろから準備しておきましょう。

災害時の安否確認

災害発生直後は、電話がつながりにくくなります。家族など大切な人の安否確認は、災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板を利用しましょう。

◆災害用伝言ダイヤルの使い方
 「171」をダイヤル
 伝言を録音 [1] 伝言を再生 [2]

被災地の自宅の電話番号または連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番から入力
 伝言を録音します 伝言を再生します

◆携帯電話災害用伝言板
 携帯電話各社のトップメニューから災害伝言板を開き、伝言の登録確認ができます。

非常持ち出し品・備蓄品(例)

品目	内容	品目	内容
非常持ち出し袋	備蓄品をまとめるバッグ	貴重品	現金・身分証など
飲料水	1人1日3ℓ	非常食	乾パン・缶詰など
装備品	ヘルメット・軍手・運動靴など	救急用品	消毒液・ばんそうこうなど
懐中電灯	予備の電池も	携帯ラジオ	予備の電池も
日用品	ウェットティッシュ・トイレトイレットペーパー・マスクなど	道具	タオル・ライター・布ガムテープ・ビニールシートなど
ポリ袋	10枚程度	防寒具	カイロ・サバイバルブランケットなど
筆記用具	ペン・メモ帳など	その他	生理用品・おむつなど

◆その他必要なものを家族で相談し、準備しましょう。

【自助】
 自分の安全は、自分で守るというのが、防災対策の基本です。地震発生直後の公的な支援は困難で、できることは、限界があります。自らが災害に対する備えをするようにしましょう。

◆家庭での安全対策
 家の中では、家具を固定し、窓ガラスなどに飛散防止フィルムを貼ります。家の外では屋根やブロック塀などを補強しましょう。

◆非常持ち出し品・備蓄品
 被災地に救援物資が届くまでに3日かかるといわれています。非常持ち出し品は1つにまとめ、定期的に点検してください。下記を参考に足りないものは補充し、準備しておきましょう。

◆住宅の耐震診断および改修
 市では、耐震診断および改修に対する補助(事前の手続きが必要)を行っています。

☎20998-9180
 ☎20998-9180

◆応急手当を学びましょう
 けがが発生したら、応急手当を行う必要があります。もしものために応急手当の知識を身につけておきましょう。

◆地震が発生したら
 机などの下に隠れて自分の身を守りましょう。揺れが収まっても、揺れて外に飛

◆避難するとき
 ガスの元栓を締めるなど出火防止対策をし、避難場所までは倒壊する恐れがあるブロック塀や石壁に近寄らないようにしましょう。エレベーターや車などの使用は避けてください。

また、近隣の方と声を掛け合うなど、地域の方の安全も確認しましょう。